

友だち募集中

全厚労公式
LINEでも
ニュース配信中!



全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連

〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5

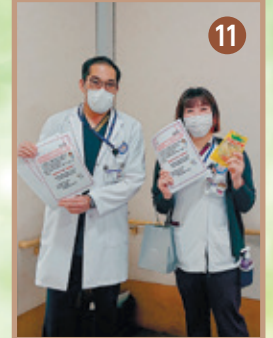
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593

発行日 毎月20日

<https://www.zenkouro.org/>

厳しい情勢の中 3・13統一行動日 さらなる賃上げを求めて

3月12・13日は産別回答指定日と統一行動日でした。全厚労も毎年この日程に結集しています。3月18日時点でベースアップ回答はまだありません。粘り強く交渉を重ね、さらなる賃上げを勝ち取りましょう。統一行動日の各県の取り組みを抜粋し紹介します。



秋田

午後3時より春闘第1回団体交渉(写真①)を行い秋厚労26名、経営側14人が参加。中央闘争委員会では全支部一致で年度末手当とベア確認回答を評価し合意しました。年末一時金不足分0・2か月の支給と年度末一律5万円の手給を勝ち取りました。ベア額は継続協議としています。

福島

各支部にて「25春闘3・13全国統一行動ニュース」を配布しました(写真②)。ニュースでは、団交日の告知や、全国的情勢、2・0%ベアへ向けた決意を記載しました。

富山

8日に青年行動隊春闘学習会(写真③)を開催。35名の青年行動隊と18名の中央闘争委員が参加しました。学習会ではこれまで勝ち取ってきた権利や手当、給与・定昇とベアの重要性についての講義や、青年部の企画として厚生連に就職してから退職までを想定した「リアル人生ゲーム」を行いました。結婚、出産、車や住宅購入等でいくらかお金が必要となり、厚生連の給与表を用いて定昇が将来の人生設計にどのように反映するかについてなど春闘の重要性について認識を深める大変有意義な企画となりました。

長野

各支部でのスタンディングや宣伝行動を行いました。また県内4か所で開催された署名活動も行いました。この支部では9時〜11時に、外来待合患者さんに声をかけ署名活動(写真④)。各職場代表者が19名参加し、増員署名187筆を集めました。鹿教湯支部でもスタンディングを行いました(写真⑤)。

茨城

8時半から9時半まで1時間の指名ストを決定し、各支部での朝ヒラ行動を行いました(写真⑥西南支部)。中央執行委員会の開催、駅宣伝(写真⑦)、

団交を行いました。

静岡

ワッペン行動を行いました。中伊豆支部では組合旗を持ち記念撮影を行いました(写真⑧)。

三重

午後2時より中央執行委員会、3時半からは春闘決起集会(写真⑨)を開催し22名が参加しました。それぞれの春闘目標を確認し、団結カンパロウを行いました。

広島

団体交渉を行いました(写真⑩)。理事長からは労いの言葉と、ベアの重要性について発言がありました。その後、夜勤協定不履行や各支部の問題点について協議を行い、広厚労ニュースを発行しました。

徳島

7時45分〜8時10分で朝ヒラ行動を行いました。各支部3名の執行委員が「春闘とワッペンの着用についてのビデオ」を配布しました(写真⑪)。午後4時から春闘第2回目の団体交渉を行いました。

高知

高知県医師会連合会で行われた生協病院での全国統一ストに参加しました(写真⑫)。病院ではワッペン行動も行いました。

大分

団体交渉を行いました(写真⑬)。全厚労統一要求書の回答を回答指定日に受け取りました。

東海ブロック

3月15・16日、春季学習会を開催し、静岡、愛知、岐阜、三重から総勢69名が参加しました。全厚労25春闘方針を意志統一し、16日は岐阜駅前にて署名宣伝行動を行いました(写真⑭)。宣伝行動の様子は翌日の岐阜新聞に掲載されました。



池田真紀議員 (立憲・北海道5区)



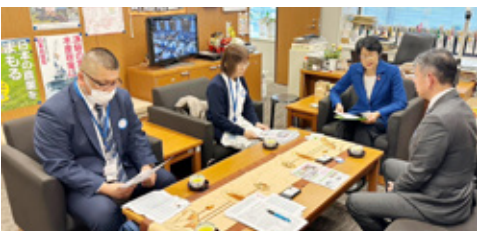
本村伸子議員 (共産・東海比例)



星野剛士議員 (自民・南関東比例)



米山隆一議員 (立憲・新潟4区)



紙智子議員 (共産・全国比例)

医療・介護への支援は最重要課題

50カ所を訪問し、13名の議員と直接懇談

3月5日、全厚労は25医労連春闘中央行動に結集し、独自に衆参で約50の議員事務所を訪問しました。13名の国会議員と直接話し、秘書対応でも現場実態や処遇改善の課題について深く話をすることができました。また今回の賛同議員は34名に上りました。

行動には全厚労中執の他、「広厚労署名担当大臣」(2月号掲載)を加えた14名が議員会館別の3チームに分かれて、議員事務所を回りました。事前に回答やアポイントの取れた議員を訪問しましたが、秘書対応予定だったところでも、タイミング良く議員本人と会えるなど、運の良いチームもありました。直接懇談できた議員は別表の通りで、いずれの議員からも好意的な反応が得られました。

衆議院では、田中健議員(立憲・静岡)からは、「伊豆南部でも産科がなくなり地方から若い人がいなくなっている。給与上げなければ」や、西川将人議員(立憲・北海道)「ニセコなどインバウンド等で看護師よりスーパードクターバイトの方が時給高くなっている状況で危機的」、池田真紀議員(立憲・北海道)「介護士も給料低いが看護師

えたのは共産党議員のみでしたが、秘書対応の議員でも時間を取って話をすることが出来ました。

紙智子議員(共産・全国比例)は、「北海道厚生連が地域医療で重要な役割を果たしていることに感謝している。地域になくってはならない存在であり、力を尽くしたい」、倉林明子議員(共産・京都)は、「病床削って地域に住めなくして地方創生言えるか! 軍事費あれだけ増やしている、なんで医療費足りひんの。しかも衆議院の予算審議で4兆円医療費マイナスイメージして、なんべん医療崩壊させたの!」と怒り心頭で訴えられました。

またこの間、懇談を重ねてきた看護協会出身の石田昌宏議員(自民)の政策秘書・五反分さんとの懇談では、「議員本人も全国回って幅広く現場の声を聞いてきた。人口減少の中で、医療提供体制を守っていくには、思い切った発想の転換も必要。今後、様々な医療・看護系団体とも意見を交わしていきたい」との考えも示されました。れいわ新

直接懇談できた議員

(敬称略、会派・あいうえお順)

衆議院議員	参議院議員
長谷川淳二、星野剛士 (自民)、池田真紀、神津たけし、西川将人、宮川伸、米山隆一 (立憲)、田中健 (国民)、本村伸子 (共産)	井上哲士、紙智子、倉林明子、山添拓 (共産)

今年2%以上アップを実現しないと 今後の発言力を失う事に

25春闘・全厚連要請

3月6日、14県23名の全厚労中執で全厚連への春闘要請を行いました。

前田参事は、「公的3団体(厚生連、赤十字、済生会)で政府等へ支援を求め、コロナ禍での頑張りで厚生連が非常に高く評価され、認知度も上がった。ベア評価料は、要請

で実現したもの。今年2%以上の賃上げを達成しないことには、今後の発言力もなくなりかねない」と、なんとか賃上げを各厚生連にお願いし、「医療施設等経営強化支援事業」の活用を呼びかけていると話されました。

全厚労は、「24年度2・5%

25年度2%以上の達成でも実質賃金はマイナスで、他産業にも立ち後れている。人員不足も埋められず、医療崩壊への危機を感じている」と、改めてベアでの大幅賃上げを推進していくよう、強く要請しました。

また現場からメンタルによる離職の増加や復職に関する

問題が訴えられ、危機意識の共有やバワハラへの具体的な対策を講じること。リハビリでは、収益増を求める経営や慢性的人員不足も絡んで、過剰な単位を求められ時間外労働の常態化があり、職員のWLBや質の高いリハビリのためにも、全厚連で単位数の標準化を行って欲しいと要望しました。

その他、消費税減免の実現や「特例業務負担金」の過度な負担についても、JAGグループの支援を求めるべきと訴えました。



オンラインでの学習講演 (三北)



久々に集まった関プロメンバー

2月23日、全厚労関信ブロック会議が約1年ぶりに開催されました。久しぶりというよりもあり、各県の実情や春闘の取り組みなど活発な意見交換がなされました。全国的に厳しい経営環境の中、医療・介護労働者の賃上げをいかに達成するか、地域医療を守るため組合として何ができるか、話題は尽きませんでした。久しぶりというよりもあり、各県の実情や春闘の取り組みなど活発な意見交換がなされました。全国的に厳しい経営環境の中、医療・介護労働者の賃上げをいかに達成するか、地域医療を守るため組合として何ができるか、話題は尽きませんでした。久しぶりというよりもあり、各県の実情や春闘の取り組みなど活発な意見交換がなされました。全国的に厳しい経営環境の中、医療・介護労働者の賃上げをいかに達成するか、地域医療を守るため組合として何ができるか、話題は尽きませんでした。

全厚労三北ブロックは、2月21日、ブロック25春闘討論集会を富山県民会館で開催、5道県22名が参加しました。三北の特徴は、各道県の名物お菓子を持ち寄ることです。机にお菓子を並べて会議がスタートしました。

東京民医連労働組合書記長・細見学さんが「経営分析について」、Zoomを使って学習講演を行いました。細見

さんは「財務三表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)を学ぶことにより経営実態を把握できる」として、わかりやすく丁寧に説明してくださいました。参加者からは「以前学んだことを思い出し、あらためて大切だと感じた」「早く自分が関

わる厚生連の経営状況をみてみたい」などの感想がありました。討論では、各道県から春闘の取り組みと重点課題を報告し、ベアアップ、物価上昇による通勤手当の見直し、子育て支援、有給休暇の時間取得など、積極的に質問や情報交換を行いました。最後にそれぞれの要求実現に向けて頑張ることを確認して、閉会しました。

三北ブロック お菓子でほっこり要求がっちり

関信ブロック

生活と医療を守るため奮闘を決意

頑張る仲間

各県

この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第204回は長野・徳島をお願いします。



長野 五味慎吾さん

長厚労富士見支部の五味と申します。書記長に任命され2年目になりますが、就任前や青年部時代には、組合活動と言えば病院祭や各種イベントに参加し職員同士や地域住民の皆さんと交流を図ることが主な活動だと思っておりました。

しかし長い歴史の中で職場環境の改善や賃金要求、政府交渉など幅広く粘り強く交渉を続けてきた先駆者の皆さんのお陰で今の地位があると気付かされました。これからの医療界を支える若手職員や医療・介護現場で働く仲間のためにも満足度を上げられるよう主体的に取り組んでまいります。共に頑張りましょう！

徳厚労で看護師5年目の佐野弘幸です。執行部1年目です。今まで勤めていた職場は組合がなく、組合には入ったもののどんな活動をしているのかがピンときていませんでした。執行部員となり何も分からないながら、暖かく頼りになる先輩方に支えられ楽しく活動しています。組合活動を通して今まで知らなかったことを学べ、組合員の団結の力の強さが今まさに必要であると肌で感じています。これからも徳厚労の一員として頑張っていきますのでよろしくお願いします。



徳島 佐野弘幸さん

読者の声

医療研の報告、充実した内容だったことが伝わってきました。「医療介護で働くプロであると同時に社会の一員であることを自覚」という部分が、最近薄くなってきたなと反省しました。(長野)

医療研の良さが伝わり嬉しいです。参加者に魅力ある集会の開催を目指して全厚労も頑張っていきたいと思っています。(OG)

職場、もうええでしよう。(岐阜)
もうええでしよう(笑)厚労省は団塊世代の高齢者がいなくなれば需要が減って現状の医療供給体制で大丈夫と誤っている節がありますね。コロナ禍の教訓をもう忘れたのか！地域医療構想も推し進めてきていますね。(AK)

厚生連本所より、自分の病院の赤字は自分の病院で埋めるようにと通達があり、スタッフも少ないのに患者さんの入院を増やし、毎日残業して疲弊しています。しかも、残業をつけると人件費がかさむとか力量がないと言われてしまい、好きで残業してるわけでもないのに切なくなっています。(福島)

私たちの「協同組合」は二

人は万人のために、万人は一人のために」を理念としている組織。弱いところは全体で支え合うのが当然です。「原点に帰れ！」と言ってあげましょう。(MT)

理学療法士です。脳出血後、気切管理の担当の患者さんが何とかスピーチ力二コーレに変更でき、初めてありがとう。もつと喋りたい」と声を聞けた時は涙が出るほど感動して、嬉しかったです。(三重)

仕事にやりがいを感じることが出来た瞬間、次も頑張ろうと思えますよね。あとは対価である賃金を増やすために、25春闘団結して共に頑張りましょう！(KU)

新歓準備に共済活用を

まもなく新入職員が入職してきます。新入職員全員を労働組合に迎え入れる準備を進めましょう。

新歓成功の一番の秘訣はオリエンテーションなど新歓企画の当日に専従や執行部だけの取り組みにせず、先輩組合員みなで歓迎することです。とりわけ新人が配属される職場の先輩の参加は不可欠。また、医労連共済の「みんなの助けあいアンケート」や「共済プレゼント」も活用してください。アンケートは簡単な設問で毎年5千人以上が回答し、半数近い新入職員から資料や共済説明を聞きたいという声が寄せられています。しっかり準備して新人100%加入をめざしましょう。



全厚労X
全国の活動を
ポスト中!



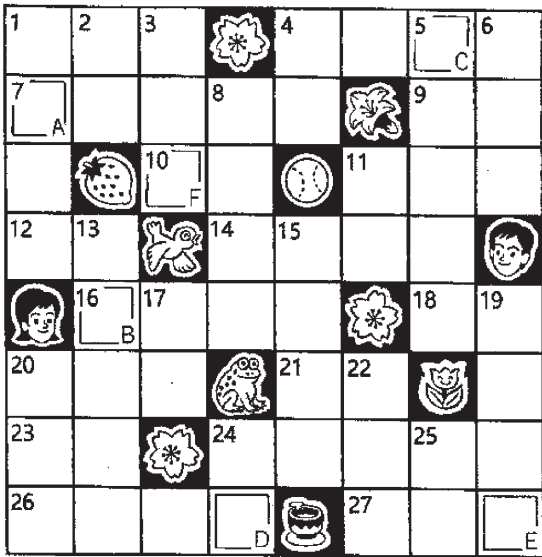
読者の声、聞かせて・教えて、クロスワードはすべてQRコードよりスマホから投稿できます。氏名・住所・希望景品(図書カード又はクオカード)は必須事項です。

教宣部のつぶやき

昨年3月に逝去された漫画家の鳥山明さん。私は幼少期ドラゴンボールやドラゴンクエストに熱中し、大人になってドクタースランプ完全版を大人買い。独特の丸みのあるデザインで描かれるキャラクターやメカが好きだ。遺作となったドラゴンボールDAIMA最終回は先生の命日に放送された。是非皆さんにも観てほしい。(OK)

ザ・クロスワード

出題▶モロズミ勝



答 A B C D E F

ヨコのカギ

- 1 ユーカリを食べる動物
- 4 横浜流星が主演の大河ドラマ
- 7 ……あかつきを覚え
- 9 十二支の2番目
- 10 縫わない針。……針
- 11 昭和のお笑いグループ、チャンバラ……
- 12 魚や貝は……の幸
- 14 前へ進めること
- 16 火事場などにいる馬?
- 18 ……を照らす、これ則ち国宝なり
- 20 串……、……虫
- 21 へま。……を踏む
- 23 油を流すヒキガエル
- 24 首都はイスラマバード
- 26 有名な「動物記」の人
- 27 丸太をつないだ舟

- 25 24 22 20 19 17 15 13 11 8 6 5 4 3 2 1

タテのカギ
からみをつける香辛料
魚へんに占と書いて?
日本間で天井とかもい
の間の飾り窓
駅……。どか……
10本のピンを倒す競技
海水の満ち引き
「彼の實力は……だ」
……には勝てぬ
旧国名はビルマ
当世。……の子
引き分けとなった碁
首都はカンパラ
大衆的なお菓子
自分で食事を作ります
それ行けアン……マン
……は飢えても穂をつ
まず



被爆80年に平和を誓う

3・1ビキニデー集会・全厚労ピース学習会

2月28日から3月1日にかけて3・1ビキニデー集会が開催され、全厚労独自企画「ピース学習会」と合わせ36名が参加しました。米軍が太平洋マシーナル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験による被災71年となる集会は、焼津市民センターにて開催されました。

被爆の実相を広げ、核兵器のない世界の実現を

今年の全厚労「ピース学習会」では日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞受賞を記念してドキュメンタリーVTR、「屍を超えてオ

学習の継続必要

三厚労 池滝和史
ビキニ環礁で使用された水爆は広島型原爆のおよそ1千発分であると説明がありました。どれだけ多くの放射能が世界に広がったか考えるだけ



後段左から2人目・池滝さん

抑止力の核保持ではなく、核兵器が人類と共存出来ないという被爆国でなければ出来ない運動や学習を今後も持続していきたいと思っています。

若い世代に伝えたい

福厚労 遠藤剛司
3・1ビキニデー集会に初めて参加することができました。私自身、2011年の原発事故の時に福島県の大塚郡地域に住んでいたこともあり、「核」に関することは切っても



福厚労・遠藤さん

切り離せない問題です。放射能の影響で家に帰れない日が続いたり、福島県の車のナンバーというだけで後ろ指をさされたり、近年では原発の再稼働の話が出たりと嫌でも向き合っていました。

今回のビキニデーでは、恥ずかしながら昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことを初めて知ることができました。被災された方々の長年の想いや努力に加えて、核兵器の恐ろしさを後世に語り続けていかなければならないと立ち上がった高校生、それぞれの想いが実った受賞だったことを知ることができました。

2日目の墓参り進では、警察も出勤する中での行進となりました。想像していたよりも何倍もの規模での行進となり衝撃を受けました。焼津駅からの道中では、街中や海辺を通り、当時ここに暮らしていた方々はどれだけの恐怖を感じたのだろうと想像しながら行進することができました。地元の高中生やその大先輩の



墓参り進へ出発

ドクター山本晴義の心の相談室（12）

落ち込んでいる時は無理に入浴しないで

患者さんから「お風呂に入るのがおっくうになってしまっとなかなか入れません。特に落ち込むようなことがあるとお風呂に入るのがどんな後回しになり、結局、そのまま眠ってしまいます。お風呂に入るなんて日常的なことができないのはおかしいですよね」という質問を受けました。



山本晴義先生

お風呂に入ることは確かに日常的なことかもしれませんが、しかし、お風呂に入ると一言で言っても、実は、お湯を出し、沸くのを待ち、髪や身体を洗う、湯舟につかったり、片付けたりとさまざまな動作が必要になります。

しかも、熱いお湯に体をいれる、高温湿度の空気を吸い込

むことなど、私たちが何気なくしている行動は、実は体にとっては大きなエネルギーを消費する大変な行為なのです。多くの健康な人にとっては入浴の複雑さは問題にはなりません。が、疲れてエネルギーが落ちているときには難しい行為であり、ためらうのも必然的なことかもしれません。

特にうつ病にかかると入浴を避けるようになることが多くあります。これもこうした難易度の高い作業を遂行する機能が落ちるからと考えられます。

たとえば、スマホの充電が少なくなっているときに、多くの人は電力を消費しやすいアプリを使用せず、本来に必要なLINEやメールなどのために残しておこうとするのではないのでしょうか。それと同じでエネルギーがない状態で、その貴重なエネルギーをお風呂に使う人はあまりいません。

ストレスが続いて本当に疲労してしまつたときは、お風呂に入らなくても大丈夫です。仮に1週間入らなくても特に支障はありません。何も休むことが一番の回復につながります。

日本も条約に参加を

福厚労 丸山将季

日本被団協が昨年、ノーベル平和賞を受賞し、核兵器の全面禁止と廃絶の想いが今まで以上に高まる中での参加となりました。

原爆被災者の貴重な話が途絶えてはいけなと、我々青年世代も尽力している姿を見て、とても刺激を受けました。ロシア、ウクライナ問題や北朝鮮の脅しなど、核兵器の使用をチラつかせる国があるという現実には非常に恐ろしい事だと感じ、それと同時に、核兵器禁止条約に背を向ける日本政府があることがとても落胆する思いになりました。

70年以上粘り強く平和を祈る運動が続けてきた日本被団協を、私は活動に参加したり、



福厚労・丸山さん

編集後記

ノーベル委員会は、日本被団協への授賞理由の中で、原爆投下を受けて世界の人々の中に運動が起こり、核兵器を使つてはならないという規範ができ、「核のタブー」になったと述べています。私たちに出来ることは核の悲惨さを語り継ぎ、世界中から核兵器を放棄するその日まで活動しつづけることなのではないでしょうか。



参加メンバーにて

新フラッグ完成 ピースウェーブに取り組もう

今年のピースフラッグも「まもろういのち」、「必要な予算を社会保障に」のスローガンですが、被爆80年ということで「80」の数字を載せています。8月の原水爆禁止世界大会へ向けて各地で始まる国民平和大行進への参加と、全厚労『ピースウェーブ』で、この新フラッグを使った記念撮影や行進、折り鶴の作成、署名に取り組みましょう。

